救世軍公報

GOOD NEWS
ときのこえ

War Cry
10月号
福音版
2024
October
No.2877

二〇二四年　十月一日　発行

明治二十八年創刊　福音版・毎月一日発行　広報版・奇数月十五日発行

イエス・キリストに留まる

立石 友理恵

聖書は、私たちに大切な出会いが用意されているということを一貫して伝えています。それはイエス・キリストとの出会いです。

新約聖書ヨハネによる福音書はアンデレという人とイエス・キリストとの出会いを記します（1章29～42節）。

アンデレは初め、洗礼者ヨハネという神の道を教える人の弟子でしたが、師であるヨハネがイエス様を見つめて、「見よ、神の小羊だ」と言うのを聞きました。「神の小羊」とは、旧約聖書によれば神への献げものであり、自らが犠牲となって神の救いと愛をこの世界にもたらす存在を指しています。このヨハネの言葉に心を動かされて、アンデレは仲間と共にイエス様に従いました。

イエス様は振り返り、二人に「何を求めているのか」と言われました。アンデレはぜひイエス様を知りたいと思ったのでしょう。「先生、どこに泊まっておられるのですか」と尋ねました。するとイエス様は「来なさい。そうすればわかる」と招かれました。二人はついて行き、イエス様のもとに泊まりました。

この「泊まる」という言葉は聖書では「留まる」という意味があり、イエス様との深いつながりを表す言葉です。アンデレたちはイエス様と関わりをもちたいと願い、イエス様のもとに留まりましたが、イエス様も彼らを受け入れ、関わりをもたれました。そして二人はイエス様のもとで、神と共に生きる人生があることを知りました。

このようなイエス様との出会いをアンデレは「メシア（救い主）に出会った」と言い表しました。アンデレはイエス様によって神の愛を知り、神に受け入れられて生きる喜びを知り、神の救いを知ったのでした。

イエス様とアンデレたちの深いつながりを表す「泊まる・留まる」という言葉は、ヨハネによる福音書において繰返し使われます。

イエス様を信じる人はイエス様の内におり、イエス様もその人の内にいつもいてくださいます（6章56節）。また、イエス様は

「わたしにつながっていなさい。わたしもあなたがたにつながっている。」（15章4節）また、

「わたしもあなたがたを愛してきた。わたしの愛にとどまりなさい」（15章9節）と語られました。

このイエス様の言葉は今日の私たちへの招きでもあります。イエス様は私たちをも愛し、つながると言ってくださいます。

イエス様は、私たちが神から遠ざかり、よりどころを失い、滅びるのを放っておかれず、私たちを救うために「神の小羊」としてご自分を犠牲にしてくださいました。

「道であり、真理であり、命である」（14章6節）イエス様のもとに留まる時、私たちは神と共に生きる新しい命を与えられます。

イエス様は今も私たちを愛し、つながってくださいます。今も、救世軍の小隊やキリスト教会にはイエス様の言葉、イエス様との出会い、イエス様との深いつながりがあります。

イエス様は私たちがご自分のもとに留まることを、またご自分が私たちの内に留まることを今も望んでおられます。

（救世軍士官（伝道者））

信仰の体験談　証言のページ

光である神様を知って

石川　実さん
（救世軍江東小隊所属）

ジャパン・スタッフ・バンドで演奏する（一番手前）

イエス・キリストを信じ、救われる道筋は十人十色です。クリスチャンホームに育ち、思いがけない病の経験を通して神様の愛を深く知るようになったという、石川実さんの証しをお聞きしました。

幼い頃―小隊での楽しい思い出

僕は救世軍士官（伝道者）の家庭に生まれ、ほとんどずっと小隊（教会にあたる）の中で育ってきました。生まれたのはイースター（復活祭）の日曜日で、その朝、母は、小隊の方たちに送られて病院に行ったそうです。

小隊では、いつでも同い年の子がいて、一緒に遊んでいました。僕は四人兄弟ですが、兄弟の友達も大勢、平日にも遊びに来るし、日曜日には日曜学校に出て、午後も遊んだりして、いつも楽しかったです。中学生になると、日曜日の聖別会（礼拝）のパワーポイントの手伝いなどを自然にするようになりました。

そういう環境で育って、でも、高校生になったら他にやりたいこともできて、小隊には行かなくなるのかなと思ったりもしましたが、実際は離れることなく、高校二年生の時に兵士入隊（救世軍の信徒となる信仰告白の儀式）をしました。イエス様が自分の救い主であると確信し、その信仰の宣言ができました。そしてそれは、中学三年生の時に病気になったことが一つのターニングポイントだったと思っています。兵士になった頃は、まだ病気も治療中で、入退院を繰り返していました。

突然の病気を経験して

発症は突然でした。その日のことはよく覚えています。中学三年生の夏休み中で、吹奏楽部のコンクール一週間前ぐらいの時でした。体育館で練習中、急に視界がおかしくなってきて、物がダブって見えてきたんです。おかしいなと思いながら家に帰ると、親に、右目が真ん中より右に動いていないように見えると言われて、急いで近所の眼科に行きました。そこから他の病院を紹介され、外転神経麻痺という診断を受けました。目を動かす神経が何らかの原因で麻痺しているということでした。物が見づらく、朝はずっと頭が痛い症状が続き、目が見えないわけではないのですが、注視するのが難しい状態でした。大量のステロイドを投与して様子を見ることになり、いったんは症状が収まりましたが、原因の特定や今後の適切な治療方針のためにも、開頭検査をしましょう、ということになりました。検査のためのその手術が一番辛かったです。

手術して細胞検査でわかったことは、硬膜という、脳を覆っている膜が炎症を起こして腫れており、それが目に行く神経を圧迫していた。それで目が動かなくなっている、ということでした。「肥厚性硬膜炎」という診断がつき、ステロイドによる対症療法を続けていくことになりました。

開頭手術のあと目が覚めた時には、ほとんど視界がなく、一週間ぐらいは全く目が見えなくて、光を感じることもできない状態が続きました。顔も腫れ、痛みもあって、意識はあるんですけど、もう一日中真っ暗で何もできませんでした。頭の手術痕をホッチキスのようなもので止められていて、動くと傷口が開いてしまうので、頭を動かさないように言われ、身動きもできず、一日がすごく長かったのを覚えています。夕方に家族が見舞いに来てくれた時の記憶はありますが、辛い毎日でした。

その時、光が見えないというのは、すごく不安になるんだなあっていうのを感じて、光があることの大切さをすごく思いました。また、本当に神様は光なんだな、と感じました。

そして、兄弟が泣いて祈ってくれたことがすごく心に残っています。多くの人がお見舞いに来てくださいましたし、父がSNSを通じて祈りのリクエストをしてくれて、世界中の救世軍の人たちにお祈りしていただけたことも、すごい励ましになりました。小隊の方たち、連隊（教区）のユースの友達、周りにいる皆さんが祈ってくださり、励ましの寄せ書きがされた本もいただきました。本当に励まされ、祈りの力はあるんだな、と思いました。

それ以来、治療を続け、少しずつステロイドの量を減らしていったのですが、高校二年生の秋に再発して、また目が動かなくなったんです。

そこで、主治医の先生が原因に対する治療を丁寧に検討してくださって、別の薬を使うことになりました。僕のような年齢でこの病気になった例はほとんどなかったため、この後の人生が長く続く中で、どのように薬を用い、治療していくかは大きな課題で、両親も先生から説明を受け、副作用のことなどもあり、ずっと祈っていたと聞きました。その薬を半日かけて点滴で入れると、すごい気分が悪くなって、三日間ぐらい食事ができないほどで、その度に、三、四キロとか痩せるんです。これから進路を考えていこうという時期だったので、勉強もままならない体調で、なんでこんな時に再発を、という辛さはありました。でもこの治療をそれから四、五年、社会人になって少しぐらいまで続け、症状は緩解して現在に至っています。

神様の愛に捕らえられて

今、二十五歳になり、病気とも長いつきあいになりましたが、振り返ってみて、本当に守られたなあと思います。辛い経験もしましたが、その分、今の状況がすごくありがたく感じます。今も半年に一度は検査をしていますが、安定して、普通に生活ができています。最近のMRIの検査も異常はなく、心配ないということでした。本当にお恵みだなと思います。

2015年青年大会で（左から3人目）

2016年10月、兵士入隊式

僕は聖書の、ローマの信徒への手紙八章三八、三九節の言葉が好きです。

「わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。」

この聖書箇所は、本当に今の自分を表しているなと思います。いろんなことがありますが、どんなことも、イエス様の愛から僕を引き離すことはできないと思っています。病気になったのも、神様が僕を離さないタイミングでの事だったのかなと思います。僕は神様に捕まえてもらっていて、示された神の愛から離れることはできない。本当にそう感じるので、この御言葉が好きなんです。

今の働き、音楽の奉仕、これからの歩み

今は、救世軍本営（本部）の職員として、社会福祉部やICT部門で働いています。高校三年で進路を考える時になっても、まだ病気の治療中で、三カ月に一回は点滴治療が必要なこともあり、就職できるか不安でした。そんな時に、本営の社会福祉部から声をかけていただいて、手伝いをさせてもらうことになったのです。本営は、最前線にいる士官や施設の職員さんを支える部門だと感じます。自分は表に立つよりはそういう仕事をしたいなと思っていたので、ある意味で叶えられているのかなと思います。

僕は口下手なほうなので、兵士として証しをするのも言葉で話すというより、楽の音を通してでも、神様の愛を伝えられたらいいなと思っていました。今、ジャパン・スタッフ・バンド（JSB）[*1]の楽隊員として、フリューゲルホルンという楽器を吹いています。最初にJSBに加わったのは、二〇一五年の青年大会の時、ブラスバンドをやっている青少年たちがJSBと一緒に演奏する企画があった時です。兄二人もJSBに入っていて、僕も一緒に奉仕ができたらと思いました。その後、練習に参加するようになり、二〇一七年のクリスマスの時にJSB楽隊員の任命をもらいました。

JSBの楽隊員は、技術と信仰が合わさってこそ、神様の栄光を表すことができるし、聞く人に神様の愛を伝えることができるのかなと思うので、先輩方に倣って、信仰の面でも技術的な面でもしっかりと頑張っていきたいなと思います。

病気のこともあって、「今、どうするか」と考えることが多かったので、先のことは漠然としています。今は本営での仕事と、小隊での奉仕をしっかりして、これからも、神様の御声を聞いて歩んでいきたいと思っています。僕は小学校一年生から江東小隊に属しています。何年か前から、江東小隊には、海外からの士官が多く着任するようになり、礼拝にも何カ国もの国籍の方が来られています。小隊の雰囲気もいいので、これからも小隊の働きに関わっていけたらいいなと思います。

現在　江東小隊の軍旗を持って

また、今年、能登半島地震の被災地支援に三回、参加しました。僕は小さい頃から士官である両親の姿を見て、人に仕えるって大変なことだなと思っていましたが、救世軍の、人に仕えるという精神を大切に、いろいろな活動に目を向けていきたいと思っています。

病気を発症した中三の時も、再発した高校の時も、なんでこんなタイミングで、とは思いましたが、こんな辛い目に合わせる神様なんてもう嫌だというより、むしろ本当にその時、多くの方に励まされ、祈っていただいたのがすごい力になりました。何があっても、決して離れることのない神様の愛を感じています。辛い経験があったからこそ、本当に光である神様を知り、祈りの力を知ることができたと思っています。

＊1　救世軍本営付きのブラスバンド

創立者　ウイリアム・ブース　大将　リンドン・バッキンガム（万国本営　英国ロンドン）　日本司令官　スティーブン・モーリス（救世軍本営　東京都千代田区）

WINDOWS on the ARMY WORLD　世界をみつめて

〈コンゴ民主共和国〉国内避難民支援

アフリカのコンゴ民主共和国では、2024年に入って国軍と反政府武装勢力「M23」の衝突が激化し、治安が悪化しています。現地の救世軍の担当者によると、北キブ州では東部のマシシ地域から4万人もの人々がカリシンピ保健区域に避難し、緊急支援を必要としているとのことです。また今年6月以降、激化する戦闘や暴力から逃れてきた避難民の家族は、南キブ州のバラカに避難しています。避難地ではコレラの疑いのある症例が出現し、人々は水や衛生、保健サービスを十分に受けられず、深刻な人道的危機の状況にあります。

救世軍は、困難な状況にある500世帯3,000人の人々に、命を支えるためのきれいな水の支援をおこなっています（8月23日時点）。60日間にわたり、毎日3万リットルの水の供給を続ける計画です。危険な状況の中で生活を続ける避難民の人々のためお祈りください。

〈ギリシャ〉現代奴隷制及び人身取引への対策

ギリシャ・アテネの歓楽街で、救世軍の「グリーンライト・プロジェクト」は、性的搾取や人身取引の危険にさらされている女性たちとその子どもたちを支援しています。プロジェクトチームは被害者たちが、肉体的、精神的健康を取り戻し、社会に戻ることができるよう共に歩んでいます。

現地の救世軍の反人身取引部門の担当者レベッカ・ミストーは言います。「これまでの3年間で、オモニアの歓楽街で変化が起き始めていることを感じます。私たちが関わった数人の女性たちが、現代奴隷制と人身取引の状況から脱しつつあります。彼女たちは多くの困難を経験してきましたが、前に進もうとしています。」

ギリシャ　地域で活動するプロジェクトチーム

被害者たちにとっての大きな課題は、法的書類を欠いていることです。そのため合法的な仕事に就くことや公的社会保障の恩恵を受けることが難しいのです。グリーンライト・プロジェクトでは、住宅の居住許可の申請手続きを支援しています。これにより、以前は許可を受けられなかった数人の女性たちが居住許可を受け取ることができました。また数人は、他の支援団体との協力のもと、パートタイムの仕事に就くことができました。

プロジェクトではまた、NGOや公的機関と連携しながら、被害者たちの権利擁護の声をあげています。これにより、人身取引についての意見交換が活発になり、様々な機関が協力してこの問題に取り組もうという機運が高められています。グリーンライト・プロジェクトがギリシャの反人身取引の活動において良き役割を果たせるよう願っています。

救世軍とは？ What is The Salvation Army?
心は神に　手は人に　Heart to God, Hand to Man

救世軍は、世界134の国で活動するプロテスタントのキリスト教会で、国際本部は英国ロンドンにあります。1865年、英国のメソジスト教会の牧師ウイリアム・ブースと妻カサリンによって始められ、東ロンドンのスラム街で、困難な生活状況にある人々に助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました。

日本では1895（明治28）年に英国から士官（伝道者）が来日して救世軍の働きが始まりました。日本人最初の救世軍士官となったのは山室軍平で、その妻 機恵子は、廃娼（はいしょう）運動で救出された女性たちの自立支援、結核療養所設立のための募金など、山室と共に、神と人のために力を尽くして活動しました。

山室機恵子

現在、日本の救世軍では、2つの女性自立支援施設を運営しています。また、10月20日は、救世軍では特別に女性の働きを心に留め、祈り、海外支援のための「きずな献金」を献（ささ）げる日曜日となっています。今年は香港の救世軍にある児童養護施設グループホームのために献げられ、トラウマ・ケアに基づいた建物の環境整備に用いられます。

☆『キッズ・ゴスペル』コーナー☆
（子ども向け紙面）

左のQRコードから、今月の『キッズ・ゴスペル』を閲覧できます！　聖書のお話も動画で見られます。ぜひ、ご覧ください！

救世軍公報　ときのこえ
発行日　福音版／毎月1日、広報版／奇数月15日
定　価　福音版／1部40円、広報版／1部100円
（税込）　クリスマス特集号（12月1日号）／1部100円
振　替　00180－5－4400
発行兼　救　世　軍
印刷人　代表者　スティーブン・モーリス
編集人　山谷　真
発行所　救世軍本営　https://www.salvationarmy.or.jp
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17
電話　03-3237-0881（代表）
Mail　jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org
印刷所　ピーアンドエス
@SArmyJP　SArmy_JP　救世軍 The Salvation Army

聖書は新共同訳を使用しています　©共同訳聖書実行委員会 © 日本聖書協会　救世軍は、旧統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。

【取り扱い支部】

救世軍への連絡をご希望の方は、以下の中から該当する項目及び住所氏名をご記入の上、救世軍本営（左記）、もしくは、上記救世軍にご連絡ください。
・私の近くの救世軍を紹介してください。　・キリスト教についてもっと知りたいです。
・『ときのこえ』の購読を申し込みます。　・相談を希望します。